

固有種が教えてくれること  
～対話から学びを繋ぐ～

授業者 附属池田小学校 三笠啓司

1. 対象 附属池田小学校第5学年西組(35名)

2. 単元目標

・知識及び技能に関して

自分が知りたいことを明らかにするために、用いられている資料と文との繋がりを捉えることができる。

・思考力、判断力、表現力等に関して

資料の活用、事例の用い方、説明の仕方の工夫など、内容と形式を結び付け、筆者の述べたいに対して自分なりの考えをもつことができる。

・学びに向かう力、人間性等に関して

他者との対話を通して、筆者の説明の工夫への理解を深め、自己の気づきを表現活動(言語活動)へ活かそうとしている。

3. 指導に当たって

(1) 単元を通して育む「グローバル市民」と学習との関連

本単元の学習に限らず、国語科の学習においては、「つなぐ力」を大切に育んでいきたい。「つなぐ力」を高めていくために、特に大切にしていることは対話である。対話とは、他者との対話、教材との対話、自己との対話を指す。これらの対話を往還させながら、自分たちで自らの学びをコーディネートする学習経験を積み重ねてきた。その中でも特に他者との学びは、自ら教材と向き合う大きな力となるだけでなく、子どもたちの側から問いが生成される土壌を生み出し、子どもたちの主体を呼び起こす。そこでの教師の役割は、子どもたち同士の気づきを繋げるだけでなく、子ども一人一人の個の学びを繋げていくことである。「個の学び」と「協働の学び」を関連付け、繋げていく単元をデザインすることで、「つなぐ力」の高まりを目指していく。

(2) 教材観

本教材の特徴は、図表やグラフ、写真などの資料が文章の中に効果的に位置付けられ、筆者の考えに説得力をもたせているところにある。形式への多様な気づきが、読みの深まりを促していくことに繋がる。

文章にある資料の効果の捉えは、筆者の立場、読者の立場によって異なってくる。「この資料を示すことで何を伝えようとしているのではないか」「この資料と資料を繋げて考えてみると」「もしこの資料がなかったら」「この資料とこの資料を入れ替えてみたら」など、筆者の視点、読者の視点を往還させながら教材を読むことで、資料を活用しながら説明したり、考えを述べたりするよさを子どもの側から意味付ける学びが期待できる。文章構成や説明の工夫を捉える「新たな読みの視点」を獲得できる教材としての魅力を感じている。

(3) 児童・生徒観

説明的文章の学習においては、筆者の主張を支える「中」の書かれ方に目を向け、読み深めていくことを大切にしている。事例の挙げ方や順序、段落同士のつながり、筆者の主張を支える「中」の構成の在り方など、少しずつではあるが子どもたちの中に、「中」を読み深める豊かな目が育ちつつある。

説明的文章の学習に限らず、一読者として大切にしてほしいことは、読者を感じる読みである。文章の構成に

は、筆者を感じさせる個性（筆者らしさ）が必ずある。筆者の主張を正確に見つけることだけが、説明的文章を正確に読む尺度ではない。「中」の書かれ方に目を向け、筆者らしさを見つけ、自分の考えや思いを筆者と重ねる。筆者とまっすぐに向き合う心をもった読者の素地を丁寧に耕していきたい。

#### (4) 指導観

子どもたちの学習意識として、「グループでの学び」に必然性を感じている。「友達の考えを聞きたい」「自分の考えを聞いてもらえる安心感がある」「友達の考えを聞いて、自分の考えをつくりたい」など、その要因は様々である。子どもたちの学びに向かう必然性を大切にしていくために、本単元においても「グループでの学び」を中心軸に据えていく。「グループでの学び」においては、これまでと同様に拡大教材文を活用していく。同じものを同時に見つめることで、文章を拠り所にした対話が生まれ、グループでの読み合いに刺激を与えていく。

また、本教材は、2017年に書かれ、2022年に改稿された文章である。改稿前の文章と比較することで、自分たちが捉えていた文章構成や説明の工夫などを見つめ直す学びが生まれていくことだろう。改稿した文章のよさだけでなく、改稿前の文章から感じる筆者の思いや考えに触れることで、資料の効果を意味付け、文章構成や説明の工夫のよさを自分なりに表現することに繋がる学びを醸成させていく。

#### 4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文章との繋がりから、資料の意味や効果を捉え、自分の知りたいことを明らかにすることができる。	文章と資料を結び付けながら読み、筆者の考えや説明の工夫について、自分なりの考えを形成し、表現している。	自己の表現活動をよりよいものにするために、他者との対話、筆者との対話、自己内対話を繰り返し、読みの拡充を図ろうとしている。

#### 5. 単元の指導計画(全10時間)

時間	学習内容	主な評価規準	評価の観点			評価方法
			知技	思考	態度	
1	題名読みをし、書かれていることを予想する。 初発の感想を書く。	これまでの説明的文章の学習を基に、筆者の説明の工夫について想起することができる。		○	●	発話・対話の様子 ロイロノート
2	初発の感想を交流し、これからの学びの見通しを共有する。 学習計画を立てる。	資料が活用されている教材の特徴を知り、この教材で自分が学びたいことを表現できている。		●	●	発話 対話の様子 ロイロノート
3	「初め」「中」「終わり」に分け、筆者の考えを捉える。	筆者の考えが書かれている段落に着目し、三部構成を捉えている。 「初め」「中」「終わり」に書かれていることに目を向けている。	●	●		発話 対話の様子 ノート

4	「中」をグループ分けし、それぞれの段落に書かれていることの大体を捉える。	「中」に書かれていることや段落の繋がりを基に、「中」の文章構成に着目している。	●	●		発話・対話の様子 ノート
5	筆者の考えを支える「中」について、どのような視点で読み深めていくのか、共有する。	これまでの学習を想起し、どのような視点で「中」を読み深めていくのか、今後の学びへの見通しをもつことができる。	●	●		対話の様子 ロイロノート
6 7	「永遠のごみ」プラスチックと読み比べ、「中」の特徴についてグループで読み深める。	資料の活用の仕方、段落の書かれ方、表現の工夫、文章構成の特徴などの形式面について、自分	●	○		対話の様子 ロイロノート
8	これまでの学びを振り返り、自分の読みを再形成する。	なりの考えをもち、伝え合うことができる。		○	●	ロイロノート
9 【本時】	改稿前、改稿後の文章を比較し、筆者の考えを捉え直す。	それぞれの文章のよさを考え、自分なりに筆者の考えを問い直している。	●	●		発話・対話の様子 ノート
10	本単元での学びを振り返り、交流する。 本単元の学びをポートフォリオ化する。	何を学んだのか、どのように学んだのか、自己の学びを振り返り、評価する。		○	●	交流の様子 ロイロノート

●・・・形式的評価（指導に活かす評価） ○・・・総括的評価（記録に残す評価）

## 6. 本時の展開

### (1) 本時の目標

改稿前、改稿後の文章を比較し、筆者の考えと「中」の文章構成との繋がりを自分なりに表現することができる。

### (2) 本時の評価規準

筆者の考えや説明の工夫のよさを捉え直し、筆者の考えに対して自分なりに考えをもつことができる。

### (3) 本時の学習とグローバル市民コモン・ルーブリックとの関連

#### ① 項目

つなぐ力のある人

#### ② 内容

これまでの学習経験や他者との対話を通して、自己のよりよい考えを探索し、表現することができる。

(4) 展開

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 7分	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読をする。</li> <li>前時の学習で再形成した自分の読みを交流し、全体で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が読み深めた段落を中心に、音読をする。</li> <li>自由に交流させ、新たな気づきを全体で共有していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰と、どのような対話をしているのか、対話の様子を見取る。</li> </ul>
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>改稿前の文章を提示し、どの段落が、どのように改稿されたのか、確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由に交流する時間をつくり、自由な発言を見取っていく。</li> <li>違いを見つけることだけでなく、改稿された筆者の思いや、文章構成について考えている気づきが出てくれば、全体で価値付けしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二つの文章を比較し、どのように改稿されたか、考えている。また、前時までの学習と繋げ、筆者の思いを考えようとしている。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     改稿される前の文章を読んで、あなた（読者）はどんなことを感じたのかな？                 </div>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>改稿前、改稿後の文章を比較することで、それぞれの文章がもつ、筆者の考えについて考える。</li> <li>改稿した筆者の考えを全体で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>改稿前の文章と比較するが、改稿前の文章を否定する読みをつくるわけではない。改稿前、改稿後、それぞれの文章に込められた筆者の思いや願いを自分なりに捉えることができるようにしていく。</li> <li>改稿されている文と「中」の文章構成との繋がりを考えさせたい。「改稿された文章と、中の文章との繋がりは見えないかな？」と問い返し、改稿された箇所からだけでなく、文の繋がり、言葉の繋がりから筆者の考えを表現できるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>改稿された箇所と「中」の文章構成と繋げながら、改稿した筆者の思いを考え、伝え合っている。</li> <li>他者との対話を通して、よりよい考えを形成し、表現している。</li> </ul>
まとめ 8分	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者との対話を通して、自分の考えを整理し直し、学びを振り返る。</li> <li>ペア、グループで自由に交流し、自己の学びを表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何を学んだのか、どのように学んだのかといった視点で振り返りをするを大切にする。</li> <li>これまでの学びを繋げている児童を見取り、次時の学習へ誘うきっかけをつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学んだ内容、学び方に対して、自己の学びを評価している。</li> </ul>

(5) 準備物

固有種が教えてくれること(国語 五 銀河 平成 27 年度版)、  
「永遠のごみ」プラスチック(新しい国語 六 東京書籍)

7. 資料:池田地区「グローバル市民」コモンルーブリック

項目	高等学校	中学校	小学校	
			高学年	低学年
主体的な人	これまでの経験や学んだこと、 <b>新たな試みの視点</b> などから目標を持ち、その達成に向けて <b>自主的に粘り強く、創造的に</b> 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと、 <b>試みの視点</b> などから目標を持ち、その達成に向けて <b>自主的に粘り強く</b> 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと、 <b>試みの視点</b> などから目標を持ち、その達成に向けて <b>自主的に</b> 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだことから目標を持ち、その達成に向けて <b>進んで</b> 取り組むことができる。
つながりのある人	これまでの経験や知識を関連づけて <b>創造的に</b> 物事を考え、 <b>周りの人たちや異なる文化圏の人たちとの協働を構想・実践</b> することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え、 <b>地域社会の人たちとの協働を構想・実践</b> することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え、 <b>学校の人たちと協力して</b> 取り組むことができる。	これまでの経験や知識をもとに物事を考え、 <b>学級の人たちと力を合わせて</b> 取り組むことができる。
探究力のある人	自らの問題として、 <b>身近なコミュニティや世界の出来事</b> から課題を見出し、その解決に向けて取り組み、 <b>振り返りながら、創造的に</b> 追究することができる。	自らの問題として、 <b>身近なコミュニティ</b> から課題を見出し、その解決に向けて取り組み、 <b>振り返りながら</b> 追究することができる。	自らの問題として、 <b>身の回り</b> から課題を見出し、その解決に向けて取り組み、 <b>振り返る</b> ことができる。	自らの問題として、 <b>身の回り</b> の課題に気づき、その解決に向けて取り組むことができる。
寛容な人	他者の意見や考え方に対して <b>共感と傾聴の姿勢</b> で接し、 <b>多様性を尊重しながら相互理解</b> を深めることができる。	他者の意見や考えに対して <b>共感の姿勢</b> で接し、 <b>多様性を受け入れ相互理解</b> を進めることができる。	他者の意見や考えに対して <b>共感の姿勢</b> で接し、 <b>相互理解</b> を進めることができる。	他者の意見や考えに対して <b>共感の姿勢</b> で接することができる。

これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え、**学校の人たちと協力して**取り組むことができる。